

■ 読み比べ

(構成や展開、表現の特徴について)

『笑顔^{えがお}という魔法^{まほう}』も『自分の頭で考える』も「言葉」をテーマにした文章である。構成や展開、表現の特徴について比較^{ひかく}し、それぞれの文章が「言葉」をどのように捉^{とら}えているのかを考えよう。

笑顔という魔法

いけがや ゆうじ
池谷 裕二



池谷 裕二「一九七〇—」
しずおか
静岡県に生まれた。脳研究者。

著書に『海馬』『ゆるぐ脳』『単純な脳、複雑な「私」』などがある。

《出典》本書のために書きおろしたものである。

楽しいから笑うのか、笑うから楽しいのか。この問いへの答えは明らかかなように思えます。なぜなら私^{わたし}たちは日常の体験をとおして、楽しいことがあれ

ば自然に笑み^えがこぼれることを、よく知っているからです。

ところが、次のような実験が行われて、意外な結果が得られました。

実験

ペンを二通りの方法で口にくわえて、同じ漫画^{まんが}を読み、そのおもしろさを十点満点で点数をつける。

方法①……ペンを縦にして、ストローのように唇^{くちびる}でくわえる。

方法②……ペンを横にして、歯でかんでくわえる。

結果

方法②のほうが、漫画の点数が高かった。

同じ漫画を読んでいるのですから、おもしろさは同じはずです。なぜこのような実験データが得られたのでしょうか。謎^{なぞ}を解く鍵^{かぎ}は表情にあります。ペンを横にくわえたとき、顔の筋肉の使い方は、笑顔を作るときと似ています。つ

まり、この実験結果は、笑顔に似た表情を作りながら漫画を読むとおもしろく感じられることを示しているのです。ただし、笑顔をまねるだけで、決して笑ってはいないことに注意してください。笑顔に似た表情を作るだけで効果があるわけです。

このような不思議な現象が生じる理由

は、脳の立場になって考えるとわかりやすいでしょう。自分が脳になったことを想像してみてください。なにか気づくことはないでしょうか。脳は頭蓋骨に閉じ込められていて、外の世界と直接にはつながっていません。脳は孤立してこりついるのです。脳が外の情報を得るためには、体を通して感知するほかありません。手で触れてみる、耳で聞く、目で見る、手足を動かす……。このように、体を使うことで脳はかろうじて外部を検知することができます。





例えば、ラジオ体操の動きを思いだしてみ
 ましょう。腕^{うで}を大きく回す深呼吸の動きから
 始まって、さて、四番めはどんな動きでし
 うか。目を閉じて頭の中だけで考えるより
 も、実際に体を軽く動かしてみたほうが確実
 に正解にたどり着けるでしょう。体の動きや
 状態は、思考や心理にも影響^{えいきょう}を与える^{あた}ので
 す。

同じことが先ほどの実験にも当てはまります。脳は笑顔のような表情を作っ
 ている自分の姿をまず認識^{にんしき}します。同時に、漫画を読んでいる自分の姿にも気
 づきます。笑顔と漫画、この二つをうまく結びつける説明は为什么呢。
 「この漫画はおもしろいのだ」という解釈^{かいしゃく}ではないでしょうか。どうやら脳は

そんな推論を無意識のうちにやっているようなのです。

こう考えていくと、最初の問いへの答えが一つではないことが理解できます。つまり、楽しいから笑うだけでなく、笑うから楽しいという側面もあるのです。これをさらに確認するための実験が行われました。次のリストを見てください。

おいしい	死	親切	ほめる	負ける
笑う	失敗	暗闇 くらやみ	遊園地	……

これらの単語が「楽しい」と「悲しい」のどちらの感情に属するかを分類してみましよう。実験の結果、ペンを横にくわえていると、楽しい単語を「楽しい単語だ」と判断するまでの時間が、悲しい単語を「悲しい単語だ」と判断する時間よりも短くなることがわかりました。つまり、笑顔は楽しいものを見いだす能力を高めてくれるということです。

魔法のような笑顔の効力を表すことわざは古くからあります。「笑う門かどには

福^{きた}来る」 「笑顔に当たる拳^{こぶし}はない」……など。笑顔は宝物です。進化の過程で、笑顔がどのように発生したのかは、まだ解明されてはいませんが、どうやら笑顔を作ることのできる動物はヒトだけのようです。私たち人類に備わったこの大切な能力。宝の持ち腐^{ぐさ}れにならないように、普段^{ふだん}から笑顔を意識してみたらいかがでしょうか。

